

# 知識の本を選ぶ

浦安市立図書館の事例

20150302

国際子ども図書館  
子ども読書連携フォーラム  
浦安市立中央図書館  
伊藤 明美



# 浦安市の概況

- 千葉県最西部 17 km<sup>2</sup> (3/4が埋立地)  
人口約16万3千人
- 固定資産税収入により財政は健全
- 平均年齢38歳
- 保育園18、幼稚園19、小学校18、中学校10
- 15歳以下人口の割合 26,555人 16.3%
- 震災による液状化被害 (市域の86%)

# 浦安市立図書館

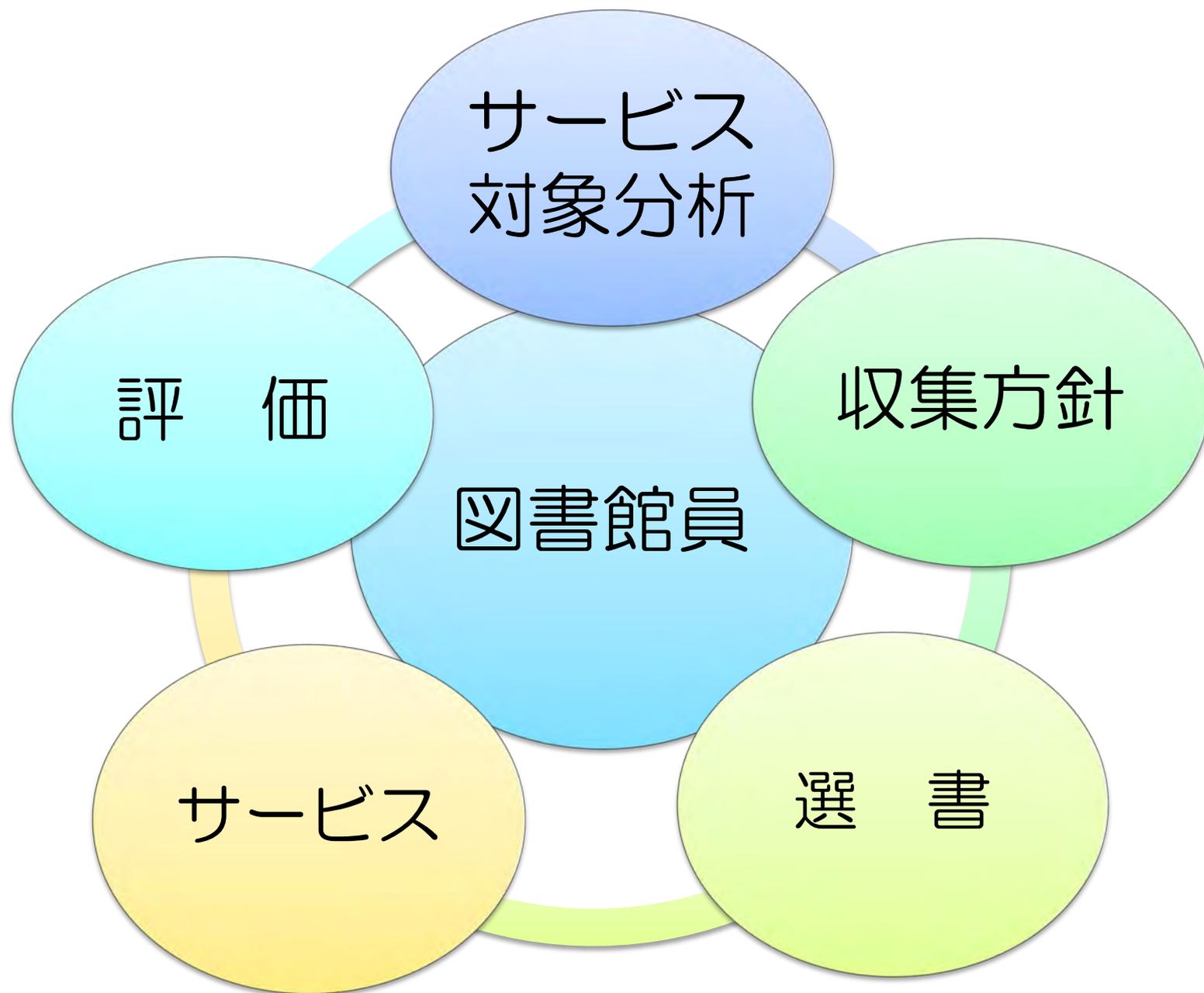
①歩いて10分どこでも本が借りられます  
1 中央館・7分館

②図書費 8,300万円（25年度）  
年間受入冊数49,829冊（購入）  
蔵書冊数116万冊（分館平均5万冊）

③職員35名（うち34名司書）  
蔵書構成5Gで選書・書架管理・移管  
市民の図書館利用率56%  
学校図書館司書（非常勤）全校配置

# 浦安市立図書館の児童サービス

- 0歳から切れ目のないサービス
- 本は選び、複本を置く
- フロアワーク
- 類縁機関サービス（年間956回）
- 選書とサービスは一体のもの



# 選書の方法

## ➤ 直接

### 現物見計らい

- 取次・書店協同組合から毎週約50冊  
児童担当と分館担当で選定  
選書会議で決定
- 出版社からの持込
- 取次倉庫からの抜出

## ➤ 間接

- 新刊リスト（週・日単位）
- 出版社目録
- 雑誌・新聞記事

## ➤ データに評価を入力

# 1冊を選ぶ

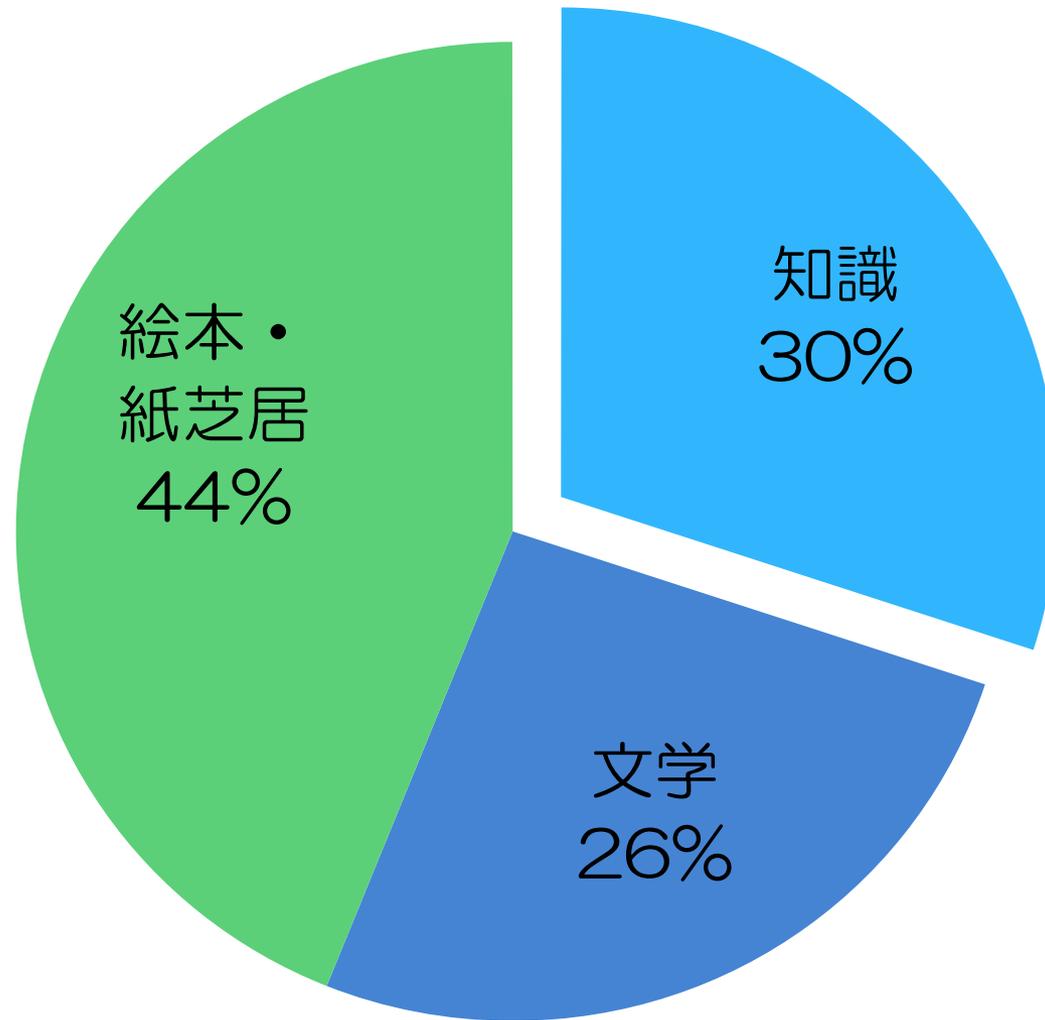
## ノン・フィクションのチェック・ポイント (Living with Books) H.E.ヘインズ 「図書館における図書の評価と書評」

1. 主題 (subject) に関して
  - 主題 (subject) またはテーマ (theme) は何か。
  - 部分的か、全般的にわたっているか。
  - 書き方は具体的か、抽象的か
2. 著者について
  - 著者の資格、学歴、経験。  
この本を書くために特別な準備をしたか
  - 作品は、著者独自の観察、研究をもとにしているか
  - 著者の観点 (見方) は、偏っているか、公平か、保守的か、急進的か等々、
3. 質に関して
  - その作品は、想像力をある程度示しているか。
  - 形式は、その考え (思想) にふさわしいか。
  - 着想や表現に独創的があるか、等々。
4. 物理的特質について
  - 十分な索引があるか。
  - さし絵、地図、図表、グラフ、書誌的事項、付録があるか。

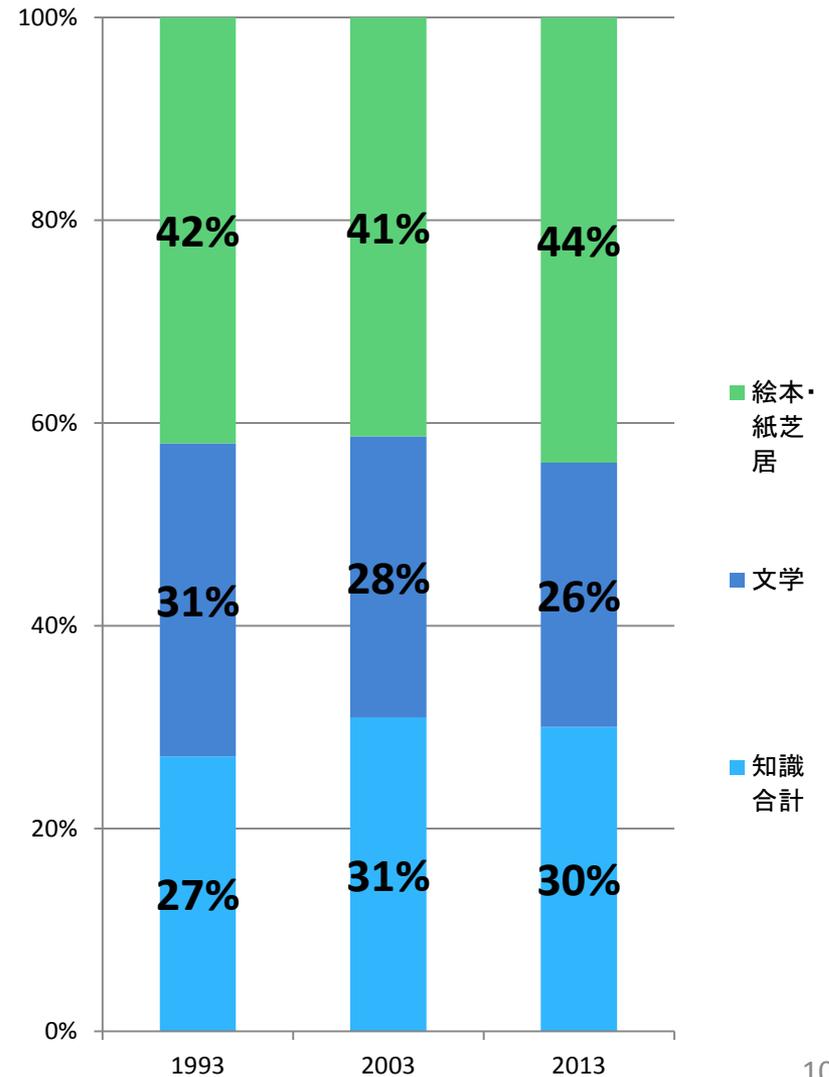
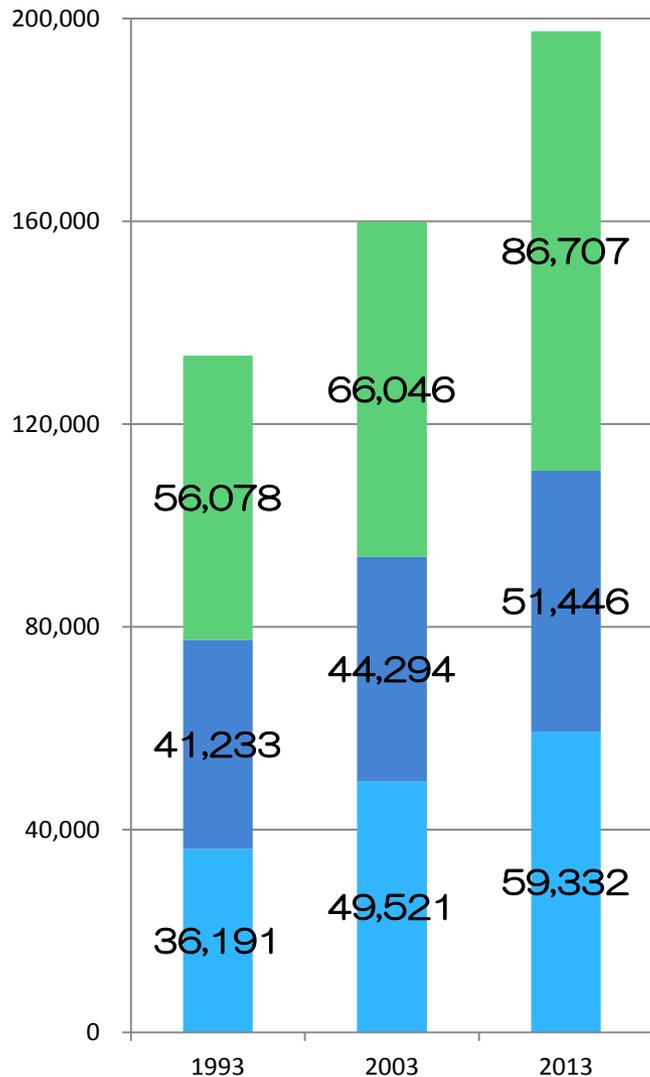
# 知識の本 出版傾向

- 教科準拠型
- セットもの
- シリーズもの
- ビジュアル化
- マルチメディア化
- 大型化
- 高額化
- 出版分野の偏り

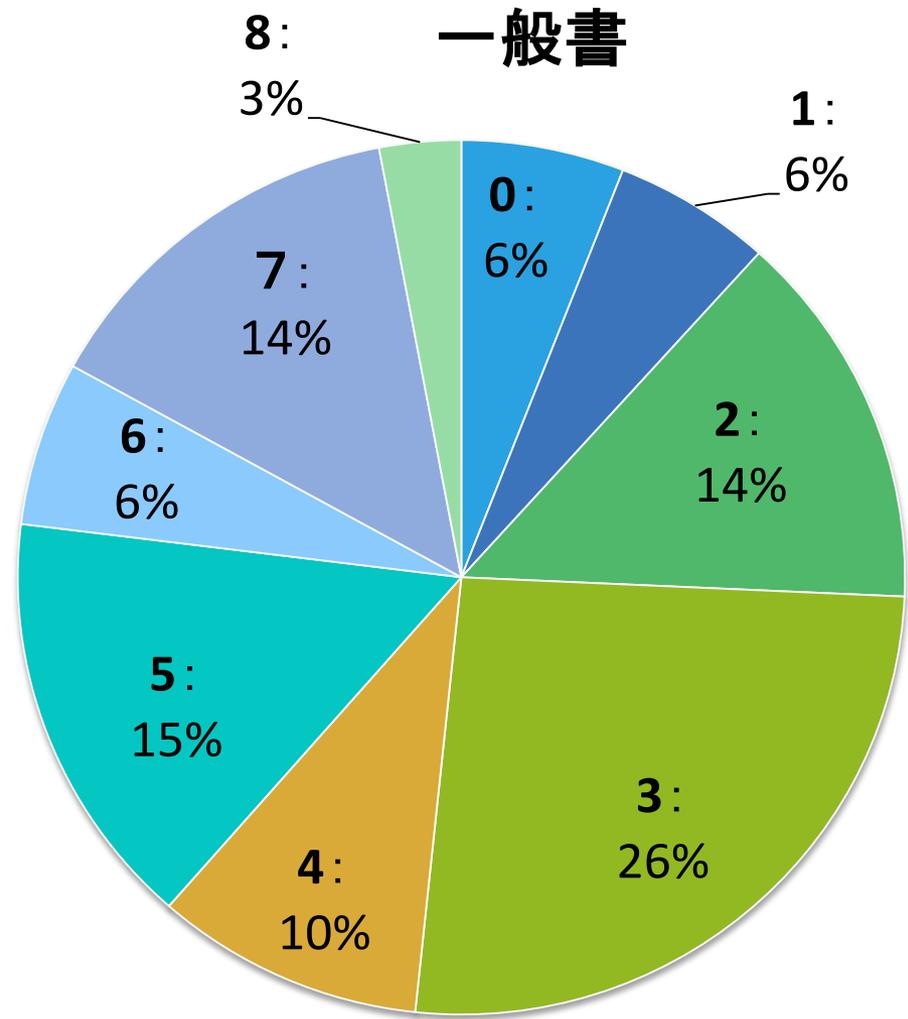
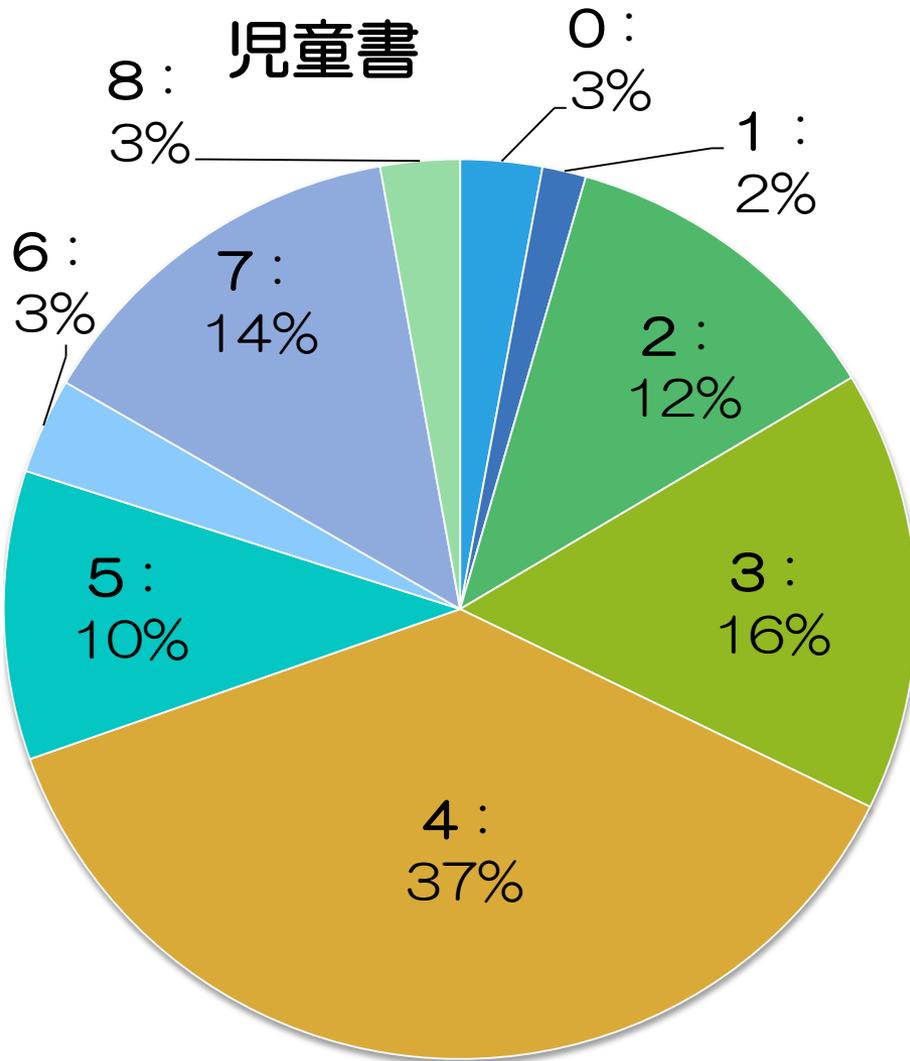
# 児童書所蔵割合 (2013)



# 所蔵冊数・比率の推移



# 一般書との違い (0~8類所蔵冊数比率)



# 選書はサービスの始まり

- 子どもの反応を見る

  - 図書館で

    - フロアワーク

    - レファレンス

    - 行事（「科学で遊ぼう」他）

    - 学校でのブックトーク

    - 読み聞かせ

- 大人から

  - 学校司書 教師 親

# 類縁サービスのプログラムと紹介した本



# 蔵書の検証

- 蔵書構成グループ展示
- テーマ展示
  - リスト・紹介文作成 HP
  - 基本図書の確認・補充
- 推薦図書リストの作成
- レファレンス記録
- 館員同士の情報交換



# 蔵書群として考える

- 一般書やレファレンス資料も必要
- 調べ学習用だけにならないように
- ごく幼い子 物語との境目がない
- 新しいから良いとは限らない
- 写真・図・表も必要だが、文章の説明も必要



- 1冊ずつ現物を見て選ぶ
- 同じテーマで比較する
- 一般書で内容を確認する
- 利用する子どもを想像して選ぶ
- 配架する書架を想像して選ぶ

# 知識の本の未来のために

- 短期的視点と長期的な視野
- ひとりのために選ぶ
- 選んだ本を生かすサービスを
  
- 本を読み、評価する
- 継続した研修
- 公共と学校の連携
- 基本図書リストの作成・改訂
- 作り手へのフィードバック



ご静聴ありがとうございました。

伊藤 明美